



287号
2023/10

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



ちょっとだけ着飾った女の子：峠道で出会った顔見知りのお姉さんに「おめかしして何処行くの」とでも声を掛けられ「従姉妹の結婚式に呼ばれたの」とでも答えているかのようです。2人の民族衣装は普段着で、色は羌(チャン)族の集落で多く見られる濃紺です。1980年代に四姑娘山麓を調査した日本の研究者は「この地の住民は羌族だ」と報告していますが、彼女たちはギャロン語の方言の一つ(国立民族博物館の話では羌族の影響が入っている)を話すチベット族です。
(四川省小金県にて2000年10月撮影：四姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川健三)

'わんりい' 2023年10月号の目次は18ページにあります

今月もまた、余りポピュラーでない四字成語です。日本の四字成語辞典には勿論、他の中国の子供向け絵本にも載っていませんでした。自焚（自分を焼く）など、「過激な表現が嫌われて、日本では使われないのだ」との意見もありますが、同じような意味で「自業自得」という便利な言葉があるので、広がらなかったのでしょうか。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

戦国時代、衛の国の国王が亡くなり、息子が国王になり、衛恒公えいこうこうと呼ばれました。衛恒公の弟の州吁しゅうくは、自分が国王になれないのが不満で、密かに同志を募って、兄王を殺害し、自ら王となりました。

州吁が王になってからは、民の財産を欲しいままに貪り、戦争を起こして人民の生活を戦乱に巻き込んでしまいました。

魯の国の大臣衆仲しゅうちゅうは、「彼は実の兄を殺して政権を奪い、百姓に対しては暴虐の限りを尽くし、軍隊を、火遊びをするように弄んでいる。気を付けないと自分自身を焼き殺してしまうだろう」と評しました。

果せるかな、一年もしないうちに、衛国の人々は、陳の国の助けを借りて、州吁を王座から引きずり下ろし、殺してしまいました。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

言葉の意味：玩：弄ぶ、；焚：焼く。悪いことをしたり、計画したりすると、最後には、自分自身が滅ぼされてしまうことを形容している。

言葉の使い方：ネットのゲームに夢中になり過ぎて、自分をコントロールできなくなると、玩火自焚と同じことで、身を滅ぼしてしまう。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・ >

このお話の出典は、「春秋左氏伝」だそうです。ちょっと疑問があって、ネット上で「春秋左氏伝」を調べたのですが、このお話は見つけれませんでした。疑問と言うのは、この本では殺される国王の名前、立心偏に亘で「恒公」となっていますが、この王様、史記を見ても、その他資料によっても、名前は「桓公」が正解のようです。なぜ「恒公」にしているのか分かりません。「桓公」と言う

王様は多いので、わざと「恒公」としたのか、単なる校正ミスなのか、分かりませんが、この本では「恒公」となっていますので、そのまま訳しました。因みに「恒公」と言う名の国王はネットでヒットしませんでした。

テレビで中国各王朝のドラマを見ると、権力者に取って代わろうとする権謀術数が飛び交い、興味深いのですが、これを実生活の場で、密かに廻らされたらたまりませんね。それでも、暴力による権力者の交代劇は歴史上数えきれません。



挿絵：満柏画伯

国民の立場からすれば、どのような交代が行われようと、新しい国王が聡明で、国や国民のためになる施策をしてくれるなら、その交代は歓迎すべきものです。実際、歴史上には武力による交代の後、歴史に名を遺す偉大な支配者が誕生したケースも数多くありました。

しかし、この州吁は素行が悪く、恒公にとがめられたのを根に持って、自分の欲望のためだけに国王の座を奪い、勝手な振る舞いが多かったので、1年経たないうちに国王の座を追われ、死後、国王としての諡号すら与えられていません。

李白の『春思』

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

この表題にある「春」の字には季節を表わす他にもさまざまな意味が込められています。方角で言えば東方、色で言えば青色。初春に芽吹く草葉の緑も「春」の兆しを表します。人で言えば若者。「青春」の語もここから来ています。唐代以後は専ら若い女性を暗示する詩語として定着します。「春情」とか「春心」などの語もよく見かけますが、この詩の表題の『春思』(春思^{しゅんし})は夫を北方の戦場に送り出した若妻のやるせない思いを表しています。

chūn sī
春思lǐ bái
李白yān cǎo rú bì sī
燕草如碧丝qín sāng dī lǜ zhī
秦桑低绿枝dāng jūn huái guī rì
当君怀归日shì qiè duàn cháng shí
是妾断肠时chūn fēng bù xiāng shí
春风不相识hé shì rù luó wéi
何事入罗帷

- * 燕草=ここでは燕^{えん}の地方に生える草の意。燕とは今の北京周辺の地を指す。唐代の頃は辺境の地とみなされていた。「燕」はここでは漠然と北方の辺地を指すと見ることもできる。
- * 碧丝=緑の細い絹糸。ここでは芽吹いたばかりの若草を形容している。
- * 秦桑=秦の地の桑。秦は都長安周辺の地をいう。春の訪れは北方よりも早い。
- * 低=垂れ下がる。葉が生い茂る様を表わす。
- * 绿枝=青葉の枝。(この出だしの2句は燕、秦両地の寒暖の差異を対比する対句となっている)
- * 当=まさに〜べし。きっと〜だろう。
- * 怀归日=帰りたいと思う日。

- * 妾=女性の謙遜語。男性の場合の「僕」に相当。
- * 断肠=苦しみの極致を示す語。(中間の2句は出だしの対句に呼応して、相手を思う熱度のズレ具合を巧みな対句で表現している)
- * 春风=春風。(ここでは若妻の心を掻き立てるものという意味合いで使われている)
- * 不相识=見知らぬ人。春風を擬人化。
- * 何事=何故
- * 罗帷=絹の帳。女性の寝室を表わす。

〔訓読〕

えんそうへきし
燕草碧糸の如く
しんそうりよくし た
秦桑緑枝を低る
まさ おも
当に君の帰るを懐う日は
こ しょう だんちよう
是れ妾の断腸の時なるべし
しゅんふうあいし
春風相識らず
なにごと らい
何事か羅帷に入る

この詩は一見したところ単純な恋歌のようにも思えますが、春思から春風へ「春」の一字をキーワードとして、行間に様々な仕掛けが施されていて、それを読み解くうちに作者特有の諧謔世界の一端が垣間見えてきます。特に末尾の2句は意味深長ですね。

〔和訳〕

くさめぶ
北の辺地に草芽吹くころ
都の地では桑の葉茂る
君が帰りを思うころには
わたしの胸はもう張り裂けるだろ
はるかぜ
見知らぬ仲の春風が
ねや
なにゆえ闈まで吹いてくる

杜牧の『赤壁』

報告:寺西 俊英

今回は、杜牧の「赤壁」です。杜牧(803年～852年)は晩唐の有名な詩人ですが彼の人生について振り返って見ましょう。生まれは陝西省・西安市。字は牧之。祖父は『通典』(中国の歴史上初めての形式が完備された政書。全200巻)の編者杜佑。彼は第12代皇帝憲宗の時代に宰相まで昇り詰めています。孫の杜牧は24歳(827年)の若さで進士になりました。その後、弘文館校書郎、比部員外郎を経て軍事を司る地方長官である黄州刺史(黄州は湖北省)に転じました。以後各地の刺史を務めた後中央に戻って中書舎人に昇進しました。順調にエリートコースを辿っていましたが間もなく没しました。約50年の人生でしたが、生来剛直で、始皇帝の造営した大宮殿にかこつけて〈阿房宮賦〉を作り、敬宗(第14代皇帝・在位824年～827年)の奢侈を諫めたりしました。また刺史の経験からか、「孫子」の注釈を作るなど政事や兵法に関心を持ち、傾きかけた唐王朝の挽回を図りました。しかし、思うようにはいかず努力が実らないまま妓楼に遊ぶことで憂さを晴らしていました。晩唐らしい退廃的な詩も遺すなど、李商隠と共に〈小李杜〉と並称されました。

では作品を見てみましょう。

赤 壁 杜 牧

折戟沙に沈んで鉄未だ銷せず
 自ら磨洗を将て前朝を認む
 東風周郎が与に便せずんば
 銅雀春深くして二喬を鎖さん

「折れた槍のような武器が川岸の砂に埋もれていたが、その鉄がまだ形を留めている。その武器



赤壁(中国サイト:携程旅行より)

を水洗いして磨くとそれは前の時代のものであった。もし東風が周瑜のために吹いてくれなければ、春深いころ美人姉妹は捕らえられ(曹操のものになって)銅雀台に閉じ込められたであろう」

起句と承句は読者の意表を突き、果たしてそのようなことがあるのだろうか、と思わせそして考えさせるのではないのでしょうか。赤壁の戦いは208年に呉の周瑜と蜀の劉備が連合し、魏の曹操を打ち破ったことで有名ですね。ところが杜牧がこの詩を書いたときまで600年余りの歳月が過ぎており川岸で見つかった武器が形を留めているわけがありませんが、敢えて杜牧がこのような表現をした意味を考えさせられます。植田先生曰く「仮説かもしれませんが」と。後段の転句と結句は四人の人物が登場します。まずは周郎ですが、これは呉の周瑜のことです。次に銅雀は銅雀台のことです。銅雀台とは曹操が魏王となった210年に魏の都であった「鄴」(ぎょう)に建てたものです。屋根の上に銅製の孔雀が乗せられてあったことから名付けられました。銅雀とあれば曹操を連想するわけですね。さらには二喬ですが、荊州の橋公(喬公)の二人の娘で、姉の方が大喬、妹の方が小喬と言いました。この二人は『三国志演義』では



西日本新聞 HP より

両者とも絶世の美女となっているそうですが、正史の『三国志』には、〈二人は孫策と周瑜の妻になった〉とだけしか書かれておらず美女かどうかは定かではないのです。正史にあるように姉は孫策（呉の孫権の兄）、妹は周瑜のそれぞれ妻になりました。孫権と周瑜は義兄弟となるほど仲が良かったようです。しかし姉の大喬は 199 年に孫策の妻になりましたが、孫策が 200 年に亡くなったので新婚生活は半年余りで未亡人となっています。妹の小喬は周瑜が赤壁の戦いの 2 年後の 210 年に遠征途上で病死し、35 歳で亡くなったのでこれまた結婚生活は約 10 年で終わりとなりました。

chì bì dù mù
赤 壁 杜 牧

zhé jǐ chén shā tiě wèi xiāo
折 戟 沉 沙 铁 未 销
zì jiāng mó xǐ rèn qián cháo
自 将 磨 洗 认 前 朝
dōng fēng bù yǔ zhōu láng biàn
东 风 不 与 周 郎 便
tóng què chūn shēn suǒ èr qiào
铜 雀 春 深 锁 二 乔

ところでこの詩を改めて読んでみると、『三国志演義』を見て書いてあるかのようですね。先程の二喬も絶世の美女と言う話や赤壁の戦いは、諸葛亮が「曹操が二喬を狙っている」と周瑜に吹き込

んだことで敵対させたことなど、多くの『三国志演義』にある内容は杜牧が生きた時代より後の世の人が想像を膨らませて書いたものでしょう。植田先生の作成された資料では、正史『三国志』の成立は、280 年頃の西晋時代です。ここで『三国志』と『三国志演義』の成立年代をその資料から書き出してみます。

- 280 年頃 正史『三国志』の成立
- 429 年 裴松之はいしょうしが注釈を挿入する。(この注釈は尾鰭がついて面白い)
- 618 年～907 年 寺院の仏教講話で三国物語が語られるようになる
- 960 年～1279 年 講談で〈説三分〉と呼ばれる三国ものが流行する
- 1271 年～1368 年 雑劇の流行と『三国志平話』の成立
- 1494 年 『三国志演義』の弘治本の成立
- 1522 年 『三国志通俗演義』嘉靖本の成立
- 1666 年 『三国志演義』毛宗崗本の成立

のようになっています。因みに今の中国の人は

毛宗崗本をもって『三国志演義』としているそうです。これから見ますと、杜牧は何から自分の詩のネタを仕入れたのでしょうか？



杜牧 『晩笑堂竹荘畫傳』より
(ウィキペディアから)

民間の伝承を上手く取り入れたということでしょうが、それにしても不思議ですね。600 年後の小説世界での出来事をなぜ予見できたのか？

「豫記」について

文と写真=村上直樹

9月9日(土)、10日(日)に東京渋谷の代々木公園イベント広場で「日中平和友好条約締結45周年記念事業・チャイナフェスティバル(中国節)2023」という催しが開かれ、日本河南同郷会も参加すると聞いたので9日に出かけてみた。公式HPによると主催は「チャイナフェスティバル2023実行委員会」と「中華人民共和国駐日本国大使館」であり、前者の最高顧問として福田康夫元首相、実行委員長として呉江浩駐日中国大使の名前があがっている。メインステージでは開会式をはじめ歌や踊りなどさまざまな公演が繰り広げられるほか、飲食・物販・展示など50を超えるブースがあり大変な賑わいだった。

公式HPのアーカイブによるとこの催しは2017年に始まったらしい。今回の開催チラシには「4年ぶりの開催」と書かれているが、昨年2022年もほぼ同様の主催団体による「日中国交正常化50周年記念事業・日中交流フェスティバル2022」が開かれている。

日本在住の河南省出身者が集まる日本河南同郷会は2013年5月に任意団体として設立されたが(2022年4月に一般社団法人となっている)、チャイナフェスティバルに参加する(ブースを設ける)のは今回が初めてである。河南省出身の経営者の集まりである日本河南総商会との共同参加である。因みにブースを設けるためには30万円の出店料が要る。ブースに行ってみると同郷会の劉延軍会長が自ら陣頭指揮をとって中国各地の食品類を販売していた。

劉会長は河南省新郷市の出身で、埼玉県を拠点と

して国際物流業を営む(株)NC通商の創業者である。故郷の新郷市にも関連会社を所有している。4代目の会長であり、同郷会の活動にも積極的に取り組んでいる。この同郷会には公式HPの他、WeChat(微信)の公式アカウント「一般社団法人日本河南同郷会」もあるので是非ご覧いただきたい。

50ほどのブースのうち中国各地の同郷会あるいは商会としては、他に黒竜江僑商連合会、日本福建長楽同郷会、日本福建総商会、日本雲南総商会(「わんりい」とも縁が深い日本雲南聯誼協会等との共同出店)、日本浙江総商会、日本江西総商会が名を連ねていた。

ところで河南省の食品として私などがすぐ思いつくのは「雑感」(2021年6月号)でも紹介した開封市の特産スナック菓子・麻辣花生である。老舗のブランド名は「興盛徳」である。今回、河南同郷会のブースで販売していたのは、残念ながら山東省で生産された製品であった。たまたま自宅に8月に大連で入手した「興盛徳」があったので早速食べ比べてみた。まず原料の落花生が違うのか、あるいは製法の違いからか「興盛徳」の方がよりカリッとした食感である(開封市は落花生の産地としても有名)。また味について言うと、山東製は一瞬間^まをおいて口の中に広がる^{から}辛さの妙がやや弱いと感じた。全体として「興盛徳」の袋に書かれているコピー「麻-辣-咸-甜-香-五味俱全」(山椒の辛さ-唐辛子の辛さ-塩辛さ-甘さ-香ばしさ-5つの味がそろっている)の点で開封製の方が上のようなのである。同じく袋に書かれている「一直被模倣、從未被超越」(常に模倣されているが、決して追い越されることはない)に納得した。もちろん、硬さ、辛さが苦手な方には山東製にほうが向いているかもしれないが。

こうした催しが盛況な理由の1つは、コロナ禍がほぼ去った現在でも、ビザが必要であったり、航空便の数が制限されていたりと、中国へ直接行くことが以前に比べて面倒な中で、少しでも本場の気分を味わうことができるからであろう。成田・鄭州間の直行便も9月9日現在まだ再開されていない。今回「中



チャイナフェスティバルにて(2023年9月)

国南方航空」のブースもあったので直接確認したところ、再開の目途は立っていないそうである。

一方、直接行けないとインターネットを利用した情報収集も自然と増えることになるが、これだけ We Media（中国語の「自媒体」）が氾濫していると、どれを選ぶか迷ってしまう。そんな中で私がとくに河南省に関する情報を得るためフォロワーとなって常々参照しているのが WeChat の公式アカウント「豫記」、とくに楊桐氏が発信する「桐話河南」等である。

では「豫記」とは何か、楊桐氏とはどのような人物か、2023年6月8日の「豫記」で豫記総編集（豫記総編集）の肩書を持つ楊桐氏自身が簡単に紹介しているので、それを「微博」の内容などで補いつつ確認してみた。楊桐氏は河南省安陽市滑県の出身で『河南商報』、『東方今報』を経て（河南大学新聞与伝播学院・講義聴講録——2014年12月11日、丁龍丹、による）、2010年10月に『鳳凰週刊』の記者になると、中国全土に散らばる河南籍の記者仲間と共に全国初の地縁に基づく記者のコミュニティ「豫記」を創設した（「豫」は河南省を、「記」は記者を示す）。2014年6月には、世の中でインターネットによる新しい情報発信が益々広がる中で、400余名の「豫記」参加者が新しい形のメディアに関する実験に乗り出し、楊桐氏も『鳳凰週刊』を退社して河南省鄭州に戻り「豫記互聯網平台」（豫記インターネットプラットフォーム）を立ち上げた。ここに至って「豫記」の意味は河南の記者から河南の記憶と記録へと拡張された。2015年1月には WeChat の公式アカウント「豫記」の認証主体である「河南豫記網絡科技有限公司」が鄭州で設立された（法人代表は楊金威という人物）。図



「豫記」のロゴマーク(百度百科より)

は「豫記」のロゴマークである。象(豫)の絵柄の中に記者を象徴するペンが見える。

その後「豫記」は順調に発展して2017年には累計の閲覧数が1億回を突破するなど影響力を拡大した。また、楊桐氏自身もさまざまな会議に招待されたり、河南大学で講義をするなど、リアルの世界でも活躍の場を広げている。さらに新型コロナ流行中の2020年には「豫記」系列のアカウント「桐話河南」を開設して、河南弁で河南省の出来事を発信している。

では、実際「豫記」あるいは「桐話河南」ではどのような話題が取り上げられているのであろうか。1つの例として新型コロナの影響により中国で未だ厳格な行動制限がとられていた2022年11月14日19時26分付けで発信された「悲傷的河南菜地：大片绿油油蔬菜因滞銷被迫犁掉」（悲しき河南の野菜畑：一面に広がる青々とした野菜が販売難の理由から押し潰さざるを得なくなっている）と題する記事を取り上げたい。これは河南省平頂山市汝州市紙坊鎮において新型コロナの影響で野菜の販売が落ち込み、小麦を植えるスペースを確保するため農家が泣く泣くブルドーザーで野菜を押し潰している現状を映像と共に伝えている。同様の状況は河南省の多くの農村部で生じていたのである。楊桐氏自らビデオで河南省の農家を救うために行動しなくてはならないと訴えている。

この記事は大きな反響を呼び、翌日の2022年11月15日21時3分付け「您的愛心正温潤河南的悲傷菜地、但我們仍需搶時間…」（あなたの真心は河南の悲しき野菜畑を温かく潤しているが、私たちはなお一刻を争って…）によると、14日の記事はアツという間に広く転載され、地方政府部門が重視するようになり、多くのプラットフォーム企業や有志が河南の農家を救うべく行動を起こした。河南省政府も18日には省内の市・県を結ぶビデオ会議を開催し、この問題の解決に向けて具体的な施策を発表した。このように官民挙げての対応が迅速であったことから、農産物の販売難の問題はかなり以前から認識されていたが、それが「豫記」の発信を切っ掛けとして解決に向けて一気に動き出したものと思われる。メディアの役割という意味でも興味深いので、当時、この「雑感」でも取り上げようと考えたが時機を逸してしまった。（つづく）

嬛この題名を見てすぐピン！と来る人はかなりの中国通である。「甄嬛(zhēn huán)」とは、2011年末から2012年春にかけて中国国内で放送されたテレビドラマである甄嬛伝の主人公の名前である。皇帝の側室であるから美人であろうが、実在の人物ではない。甄嬛伝は日本では「宮廷の諍い女」というタイトルでDVD ショップなどで販売やレンタルをされていたという。早速書店に出掛けてみたが、すでに絶版であった。これから紹介する内容の総ては数か月前に知ったばかりである。ある親しい友人と話をする中で知ることになった。

今回は3人の美人が登場する。甄嬛の次の美人は「呉雪嵐」と言い〈後宮・甄嬛伝〉を書いた小説家である。本名が呉雪嵐で小説家としてのペンネームは「流瀲紫」という。知的な感じのする美人である。さらに3人目の美人は、このテレビドラマの主人公に抜擢された「孫儷 (スンリー)」という女優である。甄嬛の役で一躍有名になったという。3人を紹介しながら、ご存じなかった方は是非このテレビドラマと3人の美人をご承知いただければ幸いである。

さて、原作は、流瀲紫がネット上で発表した小説で架空の世界が舞台である。「甄嬛伝」はこれをテレビドラマにしたものであるが清王朝を舞台にしている。宮廷内が舞台の中心であり、恋愛や女性たちの嫉妬などの描写は少なからずあるが、主に本格的な派閥争いの内容と言われる。第3代皇帝の雍正帝(在位=1723年~1735年)と正室・側室をめぐる権謀術数の数々をドラマにしたものである。雍正帝は、即位した時は44歳で政務に熱心であった。57歳で崩御したので治世は13年しかなかった。次の皇帝が有名な乾隆帝(在位1736年~1795年)であり、約60年在位できた礎は雍正帝の功績とも言われる。宮廷を中心としたドラマは沢山あるそうだが、数ある宮廷ドラマの最高峰だそうである。それは〈神劇〉という特別な名誉ある名前が付けられていることから

もお分かりいただけると思う。

私が友人にこのドラマのどのようなところがいいのか？と尋ねると「ドラマは十年前のものですが、今でも時々見えています。何でこんなに何回も見たいかと考えたら、やはりセリフです。宮廷劇ですから場面はさほど変わりませんが、それでも見たい。セリフがいいからです。セリフに深みがあるのです」と返事が来た。因みにネットでは次のように紹介されている〈本作は、「妃が皇帝を殺して皇太后になる」という物語を中心とし、その過程での人心掌握術、言葉遣い、やりとりに関して、中国で数十年にわたる大論争を引き起こした。中華圏では「甄嬛学」と呼ばれる程の社会現象が発生し、本作への絶賛は今も続いている〉。一つの作品がその作品に関する学問となるということは、紅樓夢を「紅学」といって研究されたことを思い起こさせる。

さてどのようなドラマかを見てみよう。主人公は、甄嬛という皇帝の側室である。

彼女は、生まれつきの自信家で、幼い頃から男よりずっと肝が太く、正義感と説得力に富み、常に自分の知恵を活かして、悪人を徹底的に排除する、という役柄になっている。

■あらすじ

1722年、皇帝の座を巡る康熙帝の9人の息子の殺し合いである「九子奪嫡」の末、勝ち残った雍正帝は兄弟を追放し唯一の後継者となり、第3代皇帝とな



「甄嬛伝」作者、流瀲紫(本名 呉雪嵐)
(百度百科から)



ドラマで甄嬛を演じる孫儷(スン・リー)
(百度百科から)

った。と同時に後宮でも権力を巡って女たちの諍いが起こっていた。

甄嬪は漢民族であるが、満州人による清国の雍正帝の後宮に気の進まないまま入った。当時一定の身分のある家の未婚の女の子は、妃選びに参加しなければならず彼女はその選に入ったのだ。そこは皇后と大將軍の妹の華妃の派閥に分かれ、激しい争いが繰り広げられていた。後宮に入った幼馴染の沈眉莊と初日に出会った安陵容で、派閥争いの中で生き残るための「三姉妹」の同盟を組んだ。争いから一定の距離を置き 3 人で平穏な暮らしを送るつもりでいた。ところがあるきっかけで甄嬪は皇帝の目に留まり、ここから彼女の波乱万丈の人生が幕を開ける。実は、彼女は皇帝が心から愛した亡き純元皇后によく似ていたのだ。これにより否が応でも陰謀の渦に引き込まれていった。物語前半では後宮最大の派閥の華妃派から激しく足を引っ張られ、罵倒、脅迫、冤罪、捏造を受け続けるが彼女は自らの口で華妃に反論し、ついに 5 回もの屈辱を与えることが出来た。

そして華妃派の人間も徐々に去って行った時、甄嬪は華妃に「華妃自身の不妊や流産は愛する雍正帝の仕業だ」と伝え、華妃は絶望のあまり自殺する。

物語の後半、甄嬪はこれで一安心と思った時、もう一つの派閥の皇后派が彼女が新たな華妃派になることを恐れつぶしに掛かった。「三姉妹」の内、さほど高貴ではない家の出身の安陵容は、高貴な出身の沈眉莊や自信家の彼女に引け目を感じていた。皇后は 3 人の離反を図り陰湿な罠を執拗にかけ続けた。ついに身も心も疲れ果てた彼女は紫禁城の傍にある甘露寺に入り静かな日々を送る。彼女はそこで雍正帝の弟の果郡王といつしか相愛の仲となり、妊娠する。ところで果郡王が仕事先で死んだとの誤情報を真実と思い込み、二人の間の子供を順調に産む為、そして皇后派への復讐に向けて彼女は再び後宮に戻る。すると仲の良かった安陵容は既に皇后派に入っており、彼女は安を徹底的に追い詰め自殺に追いやった。仲の良かった沈眉莊もお産の時、出血多量で死んでしまった。最後の難敵となった皇后であるが、甄嬪は純元前皇后を殺した犯人が現皇后だという証拠を握る。彼女から証拠を見せられた皇帝は激怒して直ちに皇后を失脚させ、死ぬまで幽閉した。

甄嬪は紫禁城の最大派閥の盟主となったが、この

権力拡大はついに皇帝の疑念を招いた。皇帝は甄嬪が愛した果郡王を殺すように命じ、これで彼女の本気度を試した。果郡王は兄が自分まで殺そうとすることに仰天し、自ら毒酒を仰いだ。そして皇帝が病の床に就いたとき、自身の母、兄弟、妃などを道具のように扱う皇帝に対して、甄嬪はどめの一言で死に追いやったのである。彼女は最終的に清国の頂点である〈聖母皇太后〉となる、というストーリーである。

あらすじなので友人が言ったセリフの素晴らしさは表現できないが、この派閥争いの中で人心掌握術、言葉遣い、各人とのやりとりが展開されるわけであるが、日本人の私には微妙なセリフのやり取りは字幕を読むしか方法がない。人の心の深淵まで理解できるほどの中国語ができないのがもどかしい。

では、2 番目の美人の呉雪嵐に移りたい。彼女は 1984 年生まれの 38 歳である。浙江省・湖州市で生を受けた。有名な太湖の南側にある街である。浙江師範大学卒の才媛で作家であり、教師でもある。新進気鋭という言葉がぴったりする彼女である。

2006 年 2 月、20 歳の時文学の道を志し長編小説を書き始めたと略歴にある。そして 2007 年に「後宮・甄嬪伝」を発表した。以降次々と宮廷文学を世に送り出している。写真のように如何にも知的な女性である。2012 年の結婚後も精力的に執筆活動を続けている。

最後に 3 番目の美人を登場させたい。女優の孫儷である。彼女は 1982 年生まれの 40 歳である。5 歳から舞踏を習い始め、11 歳の時「上海東方小伙伴芸術団」の代表として日本やアメリカ訪問の経験を持つ。15 歳で人民解放軍の上海警備区文工団に入団する。1998 年・16 歳の時全軍の舞踏コンクールで一等賞を獲得した。そして 1999 年には優秀兵士に選ばれた。あまり演技の経験がなかった 2002 年に、テレビドラマ「玉観音」の主役に抜擢され、これが大ヒットして多くの賞を獲得している。その後もドラマに出演し、ドラマの人気女優として道を着実に歩んでいる。2010 年に結婚し 2 児の母である。この作品で一躍有名になった、と書いたが経歴を見るとなるほどと思わせる。

実は、2004 年に日本でオンエアされた、サントリー烏龍茶の CM に出演しているとのことであるが、残念ながら筆者は記憶にない。 (おわり)

「秦皇島」から「承德」へ

「避暑山莊・外八廟」駆け足旅行(6)

文と写真 吉光 清

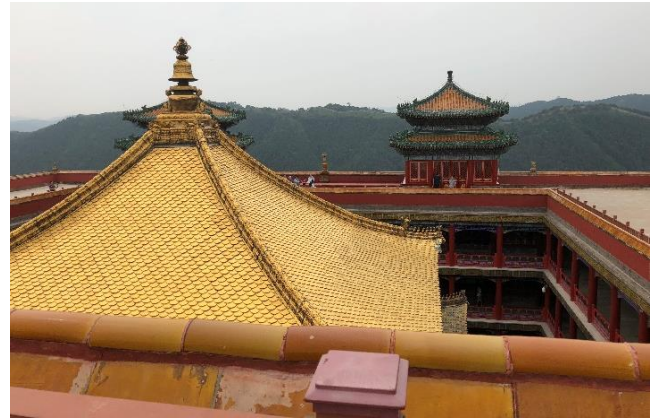
寺院や楼閣の屋根の端を「並んで歩く何者か」について、帰国後すぐに調べる気持ちは起きなかったが、国立東京博物館の特別展を観たついでに、急に思いついて「博物館資料室」に寄ってみた。スマホで撮影した写真を見せつつ、“寺院の屋根にある装飾物云々”と説明しつつ、資料閲覧申込書には、「神獣・靈獣」と書いて提出した。職員の方が探して、持って来てくれたのは『中国建築の歴史』という書籍だった。

パラパラと捲ったが、中国の古代建築の材料、形、色、模様などについて、細部まで専門的に説明されていて、すんなりと頭に入って来る筈もなかった。それでも、関連がありそうな記述を探して、「建築装飾」という箇所に通じ着いた。「琉璃は、まさに建築の表面を飾るために用いられるもので、その使用箇所にしたがって見ていくと、次のようなものがある。『1, 瓦材』-屋根瓦材は清朝の官式によれば、二様から九様まで八種類の等級に分かれており、それぞれの等級の建築に使用される-中略-各種の部材は、清朝の官式手法ではすでに完全に定型化されている」と書かれ、「琉璃瓦各部材分類図」には40種類の部材が示され、その中に「仙人」「龍」「鳳」「獅子」「麒麟」「天馬」「海馬」「魚」「獬(xiè)」「狻(hǒu)」「猴(hóu)」というのが含まれていた。これらはすべて、「装飾付きの瓦」として、配置される順番も決められている(建築物の等級次第で全部が揃うとは限らない)ようであった。

しかし、それらの総称についての記述は見つけられなかった。そこで、画像検索ソフトで、スマホの画像と類似の画像について調べたら、総称としては、どうも「走獣そうじゅう」と呼ばれるらしいことが分かった。

■「大紅台」の屋上からの眺め

大紅台の屋上は「万法帰一殿」を四方から眺める(参拝する)ことが出来るように、中央がくり抜かれた「口の字」型の回廊になっている。外周と内周は腰までの高さにレンガ色の壁が巡らされ、その上に薄



大紅台の屋上からの「万法帰一殿」と南側遠望

茶色の壁が重ねられて、その上部は丸みを帯びた手摺りとなって、中央部分を二重に取り囲む形になっている。外周の壁にははところどころに仏塔らしい飾りが付けられている。

手摺り越しに、「大紅台」内部を覗くと、鮮やかな赤色に塗られた柱や柵が見え、観光客が歩いている姿も見えた。

間近に見えた「万法帰一殿」の金色の屋根瓦はまるで鱗のような形状と屋根の葺き方であった。屋根の最上部には方形の台座があり、その上に釣鐘状のものが載り、更にその上に「水煙」のようなものが見える複雑な構造であった。

「万法帰一殿」の屋根の向こう、外周の壁と内周の壁の間に、二層の楼閣が二つ並んでいる(上の写真)。地上から見上げた時には、遙か頭上に並んで聳えていたものである。

そのまた向こうの遠くに見えるのは、「避暑山莊」を取り巻く城壁であるが、こちらの屋上も高いので、もはや高度差が感じられなくなっている。

■初めて間近に見た「走獣」たち

「万法帰一殿」の屋根上に、初めて間近に「走獣」を見ることが出来た。“走っている”というより、マスコットのように“ちょこんと座っている”ようであった。先頭には「走獣」とは別種の飾りもの(どう見ても「鳳凰に乗った仙人」には見えなかった)の部材だ



「万法帰一殿」の屋根上に並ぶ「走獣」たち

と思われる。その後ろに続く「走獣」は7匹が数えられた（「龍」「鳳」「獅子」「麒麟」・・・と続いていたのだろう）。写真で見ると、ころなしか4匹目は某ビールの商標と同じようなたてがみ鬣に見え、5匹目は馬の風貌に見える。7匹目は「魚」ということになるが、今日の「魚」と同じ生物であるはずがない（「獣」なのだから）。いったい、どのような生物として考えられていたのか、興味が湧くところである。また、この中には居なかったであろう「狐」と「猴」は辞書を引くと、それぞれ「犬」と「猿」だが、「獬」についての記述を見つけることは出来なかった。

先日、NHKで放映された「紫禁城—中国“最強”皇帝の秘めたる園」という番組を視聴した。「これまで非公開だった紫禁城の一面が修復を終えて姿を現した。そこに示されているのは乾隆帝の世界観とその美意識である」というテーマであった。番組の中では、「太和殿」前広場の、人間が全く写っていない全景や各建物の華麗な装飾のクローズアップなど、通



「世界文化遺産」に登録された意義を説明する説明盤

常は目に出来ないものを見ることが出来た。

高いアングルから撮られた、「太和殿」を始めとする各宮殿の屋根が重なり合う景観も珍しかったが、そこでは、至るところに「走獣」が見られた。屋根によって、「仙人」の後に続く「走獣」の数は1, 3, 5, 7, 9のいずれかであった。「走獣」の後ろに「獣頭」という部材が続くことが共通して見てとれた。清朝の中心であった紫禁城では、最も整備され、統一化された「走獣」のルールが採用されたに違いない。

番組中のナレーションでは、「走獣」は「火除け、魔除けのためのもの」と解説されていた。

■少し急いで隣の「須弥福寿之廟」へ

大紅台の屋上から下りる途中で、屋上の外壁を眺めることが出来たが、レンガ色の壁の中に横一線に仏壇が作られ、それぞれに彩色された仏像がズラリと並ぶ様子は壮観だった。

時計を見ると、既に10時を廻っていたので、急いで帰路を下り、道に出て左に進み、隣にある「須弥福寿之廟」の山門を潜ったのは10時半だった。

境内に入ると目の間に、大理石の立派な説明盤が置かれていた（左下の写真）。この先に続く石畳は眼鏡橋の上を通る道であることを教えていた。

この「石雕护栏五孔拱桥」は橋の長さ43メートル、幅6.5メートルで1780年に造られた。外八廟で現存する唯一の石造り眼鏡橋であり、欄干を飾る石の彫刻、橋の見事な造形の芸術的価値の高さとともに、差し迫った保護の必要性が認められ、1961年「全国重点文物保护单位」に、1994年にユネスコの「世界文化遺産」に登録された。

説明盤の左上隅の「ユネスコ世界遺産」のエンブレムが目立っていた。エンブレムは1978年に制定されたもので、その意匠は、中央の正方形が人類の創造による象形を、外側の円は自然を表し、二つが密接に結ばれて、『文化資産と自然資産が相互に依存していることの象徴』である。

眼鏡橋を渡った先に、チベット式の白台の上に中華式の楼閣を載せた建物が見えた。（つづく）

■資料：田中淡訳『中国建築の歴史』、
中国建築史編集委員会編、平凡社、1981

卵（台湾高山族民話）

訳：一瀬靖子／大槻一枝

夫婦がいました。年をとっても子供が生まれません。二人はどんなに子供が欲しいと思っていたでしょう。子宝の神様をお祀りし、日々祈祷を欠かさなければ、きっと子供が授かると聞き、夫婦は神様を祀り、毎日祈りました。すると、半年も経たぬうちに妻が懐妊し、十カ月過ぎると子供が生まれました。が、生まれたのはまるい卵でした。妻はびっくりすると同時に、悩みました。

「こんなに年を重ねた今、やっと子宝に恵まれたというのに、生まれて来たのは卵？ どうしたのだろう？ もっと早くから分かっていたら、神様にはお願いはしなかったのに…」

しかし夫は、

「卵なら卵でいいじゃないか。生まれて来たのだから可愛がって育てよう」

と言いながら卵を籠に入れました。老夫婦は心を痛めながらも、毎日畑から帰ると卵を眺め、安らかな気持ちになるのです。

こうして二、三か月経つと、卵の中から子供の声が聞こえて来ました。老夫婦はたいへん喜びました。

さらに六、七か月経つと卵は籠の中で転がり始め、一年も経つと籠

から転がり出てきて、近所の子供らと一緒に遊ぶようになりました。卵は転がるばかりで歩くことができないので、体は泥だらけです。母親は優しく泥を拭き取って卵を籠に戻してやりました。七、八歳になると同年の子供らは、牛の放牧に出ます。卵は、

「僕も放牧に行きたい」

と父親にねだりました。

「え？お前牛に追いつくことができるのか？」

「もし僕が牛に追いつけないと心配するなら、僕を牛の耳の中に入れてください。僕は牛の耳から牛を

追います」

そこで父親は卵を牛の耳に入れました。卵は牛の耳から声をかけ、放牧の地へと連れ出しました。

卵は牛の耳から心地よい歌を歌いました。人々は歌声がどこから聞こえるのか、声の主が見当たらず、歌っているのは仙人か、神様かと思ったほどでした。放牧していた子供らは、よく親兄弟を誘って、仙人の歌を聞きに来ました。

子供らは成長します。しかし卵は成長しません。同じ年頃の子供らは山へ柴刈に行くようになりました。卵も父親に鎌が欲しい、柴刈に行きたいとねだり

ました。父親は、

「お前は鎌を持つ手がないのに、どうやって柴を刈るんだ？」

と尋ねました。

「父さん、鎌を僕の体にくくり付けてください。そうすれば柴を刈れます」

父親は鎌を卵の体にくくり付けました。卵は山へ登り、人々の目に触れない遠くまで行くと、殻を破って出てきました。そして近くに殻を隠し、山に登って柴を刈りました。お昼時、彼は柴を山のよ

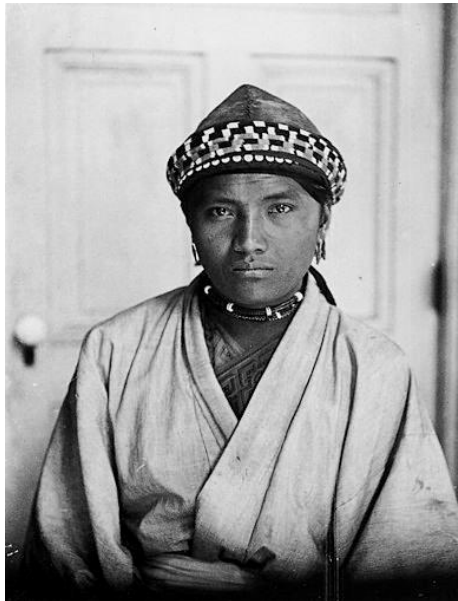
うに積み上げ、殻を脱いだところ

まで戻ると、殻に収まってゆっくりと家に帰りました。そして父親に、

「たくさん柴を刈って、山の中腹に積み上げて来たから、車で柴を引いて来よう。」

と言いました。父親は半信半疑で車を押しながら山に登りました。確かに山の中腹に刈り取った柴が積み上げてあります。父親は喜んで柴を車に載せ、家に帰りました。

翌日卵は畑に仕事に行く途中、一人の美しい娘に会いました。彼女も畑へ仕事に行くところでした。卵



日本統治時代に撮影された、ルカイ族(高山族の一つ)の頭目(ウィキペディア)

は誰も見ていない隙に殻を脱ぎ捨てて傍に隠し、
「おーい、娘さん、どこへ行くの？」
と声をかけました。娘が振り向くとハンサムな若い男性が呼んでいます。
「私は畑へ仕事に行くところです」
「貴女の畑はどこにあるの？」
娘は前方を指して、
「あの山の麓です」
と答えました。
「なあんだ、私たちの畑は隣り合っていたのだね。それなら一緒に行こうよ」
二人は話しながら歩き、畑に着きました。
仕事に励みながら、二人は歌い、微笑み、若い情熱を燃やしました。日が暮れると二人は一緒に家路につきます。卵は殻を脱いだところへ近づくと、
「私は用があるので、先に帰ってください」
と、娘を先に帰しました。卵は人目を避けて殻を被り、家に着くと父親に
「きれいな娘さんに愛されてしまった」
と告げました。父親は
「おい、おい、誰がお前のような者を好きになるものか？ そんなことを言うと人に笑われるぞ」
と、とりあいませんでした。
ある日、この村で競技大会が開かれました。相撲、徒競走などいろいろな競技が競われます。卵は両親に、
「僕もあの人たちと一緒に参加したい」
と言いました。父母は、
「あの人たちと競争するのだって？ 踏みつぶされてしまうよ」
それでも卵は、
「心配しないで。僕にはいい方法があるんだ」
卵は転がりながら競技場に行きました。人々の足元に転げ込んで、踏まれようとすると大声で、
「踏まないで！」
と叫びます。人々は丸い卵が声を出すのを聞いて、不思議そうに首をかじげました。人々が熱の入った競技に喝采を送ると、卵も一緒になって拍手喝采します。皆が競争に見入っている間に、卵は人ごみに紛

れて殻を脱ぎ捨て、人々と一緒に競技に参加しました。彼は一人、二人と競争相手を追い越して、終に先頭を駆けました。ほかの人は彼がゴールしてもまだ後ろを駆けています。

若者は能力も満点と褒められ、競技の英雄に輝きました。

美しい娘は彼が英雄と称えられたことをたいそう喜びました。試合が終わると二人は一緒に家へと帰りました。帰る途中、卵はいつものように娘に言いました、

「私は用があるので、君は先に帰ってくれ」

そしてまた殻を被って家に帰りました。

家に帰ると両親に、

「僕は今日レースに出たけれど、ほかの人よりずっと速くて、一等賞の英雄になったよ」

父母はこれを聞いて、

「信じられないよ。お前はゴロゴロと転がるだけなのに、レースの英雄になれるなんて」

と言います。状況を知らない両親に彼の話が信じられるわけがありません。

月日は流れて、卵と美しい娘はますます仲良くなりました。ある日、娘は卵の家に遊びに行きました。でもハンサムな彼の姿が見えません。父母に尋ねると、

「家には息子はいませんよ！」

と言う返事です。

これを聞いた卵は、籠の中から

「どうして息子がいないなんて言うんだらう。僕は貴方たちの息子じゃないの？」

父母はそれを聞いて顔を赤らめました。両親は他人に、息子は卵だと知られたくなかったのです。父母は、

「お前、そんな風に他人に言われても恥ずかしくないか？」

卵は、

「何が恥ずかしいんですか？ 僕はもともとこういう者なんです。愛されなければそれでいい。僕もそんな人は愛さないよ」

(以下 17 ページへ続く)

「微之を夢む」と私

本田 幸枝

初めまして。白居易の「微之を夢む」をリクエストしました本田です。

9月号の「漢詩の会報告」でご紹介頂いたように、私が「どのような経緯でこの漢詩を見つけ、興味を持ったのか」についてお話するようにとのお誘いをうけたので、ちょっとお話をさせていただきます。

まず、私がリクエストした、白居易の「微之を夢む」と言う詩、先月号の誌面から借用して、ご紹介させていただきます。

mèng wēi zhī bái jū yì
夢 微 之 白 居 易

yè	lái	xié	shǒu	mèng	tóng	yóu
夜	来	携	手	梦	同	游
chén	qǐ	yíng	jīn	lèi	mò	shōu
晨	起	盈	巾	泪	莫	收
zhāng	pǔ	lǎo	shēn	sān	dù	bìng
漳	浦	老	身	三	度	病
xián	yáng	sù	cǎo	bā	huí	qiū
咸	阳	宿	草	八	回	秋
jūn	mái	quán	xià	ní	xiāo	gǔ
君	埋	泉	下	泥	销	骨
wǒ	jì	rén	jiān	xuě	mǎn	tóu
我	寄	人	间	雪	满	头
ā	wèi	hán	láng	xiāng	cì	qù
阿	卫	韩	郎	相	次	去
yè	tái	máng	mèi	dé	zhī	bù
夜	台	茫	昧	得	知	不

び し ゆめ
微之を夢む

白居易

やらいて たずさ ゆめ どうゆう
夜来手を携えて夢に同遊す

あした お きん み
晨に起きれば巾を盈たして

なみだおさむ な
涙 収る莫し

しょうほろうしん
漳浦老身三度の病

かんようしゆくそう
咸陽宿草八回の秋

うず でいほね しょう
君は泉下に埋もれて泥骨を銷し

じんかん ゆきこうべ
我は人間に寄りて雪頭に満つ

あえいかんろう
阿衛韓郎相次いで去る

や だいぼうまい いな
夜台茫昧として知るを得たるや不や

ところで皆さまは、どのようなきっかけで、いつ頃、漢詩を楽しむようになられましたか。

私の場合は2021年の秋頃、「布袋劇」(ポテヒまたはプータイシ)とよばれる台湾の人形劇で「君埋泉下泥銷骨, 我寄人間雪滿頭」というフレーズに出会ったことがきっかけでした。つまり、この詩の5句目と6句目が引用されていたのです。

テレビシリーズ「Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀」の三期冒頭、白髪的主人公が因縁ある人物のお墓の前で献杯をするシーン。どこを切り取っても絵になるととても美しい映像でありながら「そんな茶化し方があるか」というセリフ回し。これまでの二人の関係を知る視聴者にとって、それはもう度肝を抜かれる極めて衝撃的なシーンです。この場面の公式Instagramに添えられていた詩が気に入り、いったいどんな詩なのか知りたくて、訳や解説を読みたくて、白楽天の解説本や唐詩の入門書をめぐりました。

しかしこの「夢微之」はまるで載っておらず…。探すこと一年、ハードカバーの「白氏文集」(全詩集)でようやく見つける頃にはすっかり漢詩自体に興味を持つようになっていました。

漢詩を調べだしてまもない頃、小津夜景さんや松下緑さんや日夏耿之介さんや、他にも様々な方が日本語の詩に訳していることを知りました。正直なところ井伏鱒二さんの「サヨナラダケガ人生ダ」という



台湾、国立台中図書館にある布袋劇の舞台
(Wikimedia Commons より)

有名なそれさえよく知らなかったので、こんなにも自由な世界だったのかととてもびっくりしました。そして読み下しとは違う日本語の詩として語り直す漢詩の世界をもっと知りたいと強く興味を持ちました。

そんな摸索の中で植田先生の講義録を見つけました。詩経や楚歌を題材にして、現在語の童謡のように、あるいは古風な七五調に、そしてサビ(という言い方が正しいのか分かりませんが)では朗々と歌ってみたりする先生の訳が本当に面白く、どこで講義を聴くことができるかと調べる中でわりいさんを知りました。

2022年12月に初めて聴講させていただいた折、講義の中で「来年度取り上げる詩についてのリクエストはありますか」という呼びかけがありました。そこで(初参加なのに!)恐れ多くも「夢微之」をリクエストさせていただいたという経緯です。

先生の解説を聴くことができ、平仄の美しさや作詩法や新しい解釈を知って夢微之を読み直すことができ、本当に楽しい時間でした。

恥ずかしながら、私なりに訳したものを次に載せます。(先生のお話については先月号をご確認ください)

夕^{ゆうべ}にぎったたなごころ
晨^{あした}にしたあれはゆめ
漳浦^{そで}にしとど袖の海
咸陽^{はちど} 八度 秋の草
きみは三途^{さんず}のむこう側
わたしこちらで年の雪
衛^{えい}ちゃん韓^{かん}くん
渡ったけれど
真^まっ暗^{くら}がりの黄泉^{よみ}の国
ちゃんと会えたか分かったか

- ▶漳浦…地名。海がある。
- ▶袖の海…涙が多く流れる様。
- ▶咸陽…地名。微之の墓がある。
- ▶衛ちゃん…阿衛。微之の娘。
- ▶韓くん…韓郎。阿衛の夫。

講義の中で「(最後茶化するような)この心境は理解できますか」という先生の問いかけがありましたが、誤りを覚悟で言えば、私にはこれが分かる気がします。そして、この詩があのでシーンに選ばれた理由がしみじみ分かった気がします。

つまり最後の二句は、二人の間では冗談として了解される範囲だったから、もっといえば二人の間でだけ通じる冗談だったから、ここに置かれたように思うのです。

君がいない悲しみの突き抜けた先、受け入れざるを得ない現実と意図せず向き合ってしまった先で、だからこそ笑っていようという信念というか覚悟というか、そういうものの表明であると私には見えました。微之になら通じるという関係性の上に成り立

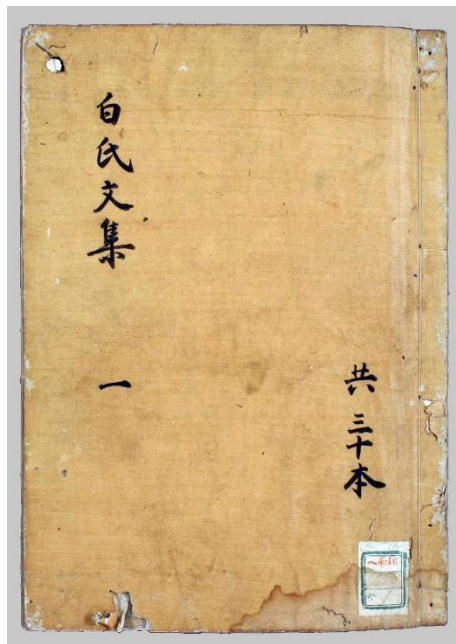
つ笑いを含んだ詩で、これを笑ってくれるのは君くらいだったのという嘆きがありつつ、だとしてもまだしばらくは冗談を言いながら生きていくよという前向きさを含み、また読者の中にもこれを理解する人がいるだろうという楽観や期待や祈りを含んだ詩のような気がしたのです。

結局のところ白居易の意図は分からないし、先生の思う心境と私の理解が合致しているかも、人形劇のあのシーンにこれを選んだ方の意図と私の理解が合致しているかも分かりませんが、私にとってはしっかりと腑に落ち、理解が深

まる先生のご講義でした。

この度は素敵な機会を頂き本当にありがとうございました。時を経て読むと新しい発見があるものだという先生の教えに従い、この先も読み返していきたいです。

ところで日本語資料や解説を探している詩は他にもありまして(張可久「人月圓・山中書事」など)見つけた方は是非教えてください、と読者の皆様におねだりしたところで筆を置こうと思います。お付き合い頂きありがとうございました。



白氏文集 [出版地不明]:[出版者不明],[元和4(1618)跋](早稲田大学蔵書目録Webから)

みんなの広場

■料理講習会のご案内

9月号で概略をお知らせしたとおり、10月12日に、久しぶりの料理講習会を開催します。今回は中華粽の作り方です。教えて頂くのは、鶏肉餡と棗餡の二種類の粽です。

4年振りの料理講習会です。皆さまのご参加をお待ちします。詳細は下記のとおりです。

■ ■ 記 ■ ■

●「中華粽の講習会」

日時：10月12日（木）10：30～15：30

場所：麻生市民館 調理室

新百合ヶ丘駅 徒歩2分

講師：郁唯先生（上海出身）

会費：1700円 お土産の粽付き

持物：エプロン・筆記用具

申込：10月7日までに代表寺西へ

090-1425-0472

以上

~~~~~

昼食は、完成した粽と、わんりいが用意するスープ、点心でお食事会にしましょう。

皆さまのご参加をお待ちします。

= : = : = : = : = : =

## ■今後のわんりい参加イベント

### ●第25回町田発国際ボランティア祭「夢広場」

恒例の国際ボランティア祭「夢広場」ですが、今年は少し様子が違って、11月3日（祝・金）は「ぼっぼ町田ひろば」で「物販」、11月23日（祝・木）には、市民フォーラム3階ホールで、「歌や踊りのイベント」と2段構えです。

わんりいは、今年「物販」への参加は見送ります。11月23日の「歌や踊りのイベント」には、わんりいの会友である歌手・エメさんがボイストレーニングを基調とした歌で出演されます。

当日、エメさんのご出演は、11：00～11：30です。エメさんには、毎月一回、ボイストレーニングのご指導をいただいています。ボイストレーニン

グに興味のある方は、当日、町田市民フォーラム3階ホールへ11：00までにお越しください。雰囲気体験できます。

#### ●まちカフェ

12月2日には、これまた恒例の「まちカフェ」が町田市役所全館を利用して開催されます。わんりいはワークショップ「水墨画教室」を開催する予定です。時間等、詳細は11月号に改めて、ご案内を掲載します。

= : = : = : = : = : =

### 芸術の秋 今からでも間に合います

#### ■第31回 インターナショナル・オルガン・フェスティバル・イン・ジャパン 2023

パイプ・オルガン

演奏：リスト音楽

院教授ヤーノシ

ュ・パールウール

(ハンガリー)



#### ①10月16日（月）

19：00開演

(18：30開場)

#### ●会場：東京カテドラル聖マリア大聖堂

入場料：6000円（全席自由・税込）

#### ②10月18日（水）

18：30開演（18：00開場）

#### ●会場：神奈川県民ホール（小ホール）

入場料：5000円（全席自由・税込）

#### ◆両日共通

演目：ヨハン・セバスティアン・バッハ作曲

前奏曲とフーガ ハ長調 BWV547

小さな和声の迷宮 BWV59』

クリスマスキャロルのカノン風変奏曲

ほか

§わんりい会員には割引があります。

申し込み先：山田賀世 電話：044-981-6171



聞いていた娘はわけが分からずその場を立ち去りました。

翌日二人はまた畑で会いました。娘が尋ねます。

「貴方はどこに住んでいるの？昨日尋ねて行ったけれど……」

「え？ 私を見なかったって？私は家にいましたよ。どうして君を見かけなかったのかな」

娘は何かあると感じて話を中断し、暗くなるいつものように一緒に家に帰りました。途中、卵は

「用がある。君は先に帰ってくれ」

と言いました。娘が近くでこっそり様子を見てみると、彼は卵の殻を被ってゴロゴロと転がりながら家に帰っていきました。

この日、娘はまた卵の家を訪ねました。彼女は卵に会わず、父親を外へ連れ出して、彼の様子を話しました。翌日卵はまた畑に出ました。卵について行った父親が、途中溝に隠れて殻を脱ぎ捨てるハンサムな青年を目にし、どんなに驚いたでしょう！ 数年来、年老いた夫婦は毎日卵を見守って来ました。今度こそ息子の本当の姿を見ることができたのです。彼は急ぎ卵の殻を持ち帰り、妻に一部始終を話しました。

暗くなり卵は帰ろうとしましたが殻が見つかりません。彼は呆然としていました。帰らない息子を心配して探しに出た夫婦は、ハンサムな息子が道端に一人座り込んでいるのを見つけました。

「お前どうして家に帰らないの？ 今日になって、お前はやっと殻を破って私たちに本当の顔を見せてくれたんだね」

三人は仲良く家に帰りました。それから間もなく青年は美しい娘と結ばれたとのことです。(終わり)

口述：田中山

記述：何陳



■満柏画伯の講演会と作品展示会

「四字成語」の挿絵、「みんなの広場」の俳句でおなじみの満柏画伯の講演会と作品展示会のご案内です。

~~~~~

無料講座：「道德経と中国芸術」

講師：満 柏 (アーティスト・美学研究者)

日時：10月5日(木) 14:00~

場所：中国文化センター

港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F

定員：40名(要予約)

電話：080-5017-9518

Mail:ncs.culture@gmail.com

~~~~~

第19回日中水墨協会展

国際芸術家展 YOKOHAMA 2023

主催：日中水墨協会・国際芸術展実行委員会

会期：10月10日(火)~10月15日(日)

時間：10:00~18:00 入場無料

初日=13:00より 最終日=15:00まで

会場：神奈川県民ホールギャラリー

横浜市中区山下町3-1

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

行く我に

とどまる汝に

秋二つ

正岡子規

yuǎn qù de wǒ

远去的我

liú xià de nǐ

留下的你

cóng cǐ qiū tiān yǒu liǎng gè

从此秋天有两个



【わんりいの催し】  
皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体のを抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：10月10日（火）10：00～11：30  
11月21日（火）10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：1,500円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

~~~~~

*** 中国語で読む 漢詩の会 ***

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：10月29日（日）10：00～11：30
11月は休講
- 講師：植田渥雄先生
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円（会場費・講師謝礼）
- 定員：20名（原則として）
- 申込：☎090-1425-0472（寺西）

Email:ukiuki65jppj@yahoo.co.jp
(有為楠)



- 10月・11月定例会 代表宅
 - ▼10月8日（日）13：45～
 - ▼11月9日（木）13：45～
- ‘わんりい’ 発送 三輪センター
 - ▼10月号 10月2日（月）
 - ▼11月号 11月1日（水）

☆☆ 編集後記 ☆☆

昔の人は、長い間自然と共に生き、気象に関する数々の名言を残しています。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉はよく知られています。今年は9月中旬まで、厳しい残暑が続き、さすがの名言も今年ばかりは実情に合わないか、と思われたのですが、彼岸の入りを迎えると、日中の残暑にも拘らず、気圧配置に、朝夕のひと時に、幽かに秋を感じるようになりました。先人の知恵は辛うじて生きていたと言えるのでしょうか。

しかし今後はどうでしょうか。「昔は『暑さ寒さも彼岸まで』と言ったものですが～～」ということになり、温暖化（いえ、今では<灼熱化>と言うそうです）がどんどん進み、人類の生活も脅かされることになりそうです。今では、世界中で何種類もの生き物が、温暖化により、既に絶滅の危機に見舞われているそうです。明日の人類の姿ではないでしょうか。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します年会費：1800円、入会金なし  
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい 10月以降の入会は、当年度会費 1000円  
■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりい’ 287号の主な目次

- 寺子屋 四字成語(66)『玩火自焚』……………2
- 「日译诗词」(35) 李白の『春思』……………3
- 「漢詩の会報告」(68) 杜牧『赤壁』……………4
- 「中原雑感」(35)「豫記」について……………6
- 「中国の歴史を彩る美人百花」(番外編)  
『甄嬪と呉雪嵐』……………8
- 「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(6)……………10
- 卵（台湾高山族）……………12
- 『微之を夢む』と私……………14
- みんなの広場……………16
- ‘わんりい’の催し・お知らせ……………18